

ストレプトゾトシン誘発糖尿病マウスにおけるHSV-1 再活性化について－Bell麻痺と糖尿病－

山 野 耕 嗣 大 野 伸 晃 小 関 晶 嗣 村 上 信 五

名古屋市立大学 耳鼻咽喉科学教室

Bell麻痺に糖尿病が高率に合併することは疫学的な調査から知られている。一方、Bell麻痺の発症には単純ヘルペスウイルス1型（以下HSV-1）の再活性化の関与が示唆されている。これらの事実から、HSV-1の再活性化における糖尿病の関与が示唆される。

当教室ではこれまでに、ストレプトゾトシン（以下STZ）誘発糖尿病マウスに対して、HSV-1を接種し、糖尿病状態では顔面神経麻痺が高率に発症することを報告してきた。

しかし、Bell麻痺は、HSV-1の初感染でなく再活性化で発症すると考えられる。

今回、糖尿病状態におけるHSV-1の再活性化について検討するために、4週齢のマウスの耳介にHSV-1を接種し、3週後にSTZを腹腔内投与し糖尿病状態を作成し、STZ投与後8週後に耳介擦過にて再活性化を誘導し、顔面神経麻痺の発症率やHSV-1の検出率、糖尿病状態での免疫学的変化などを検討したので報告する。